

福岡市総合図書館 映像ライブラリー NEWS

特別企画

第8回全国生涯学習フェスティバル協賛

* 中国映画回顧上映 11月6日(水)～11月10日(日)／11月13日(水)～11月17日(日)

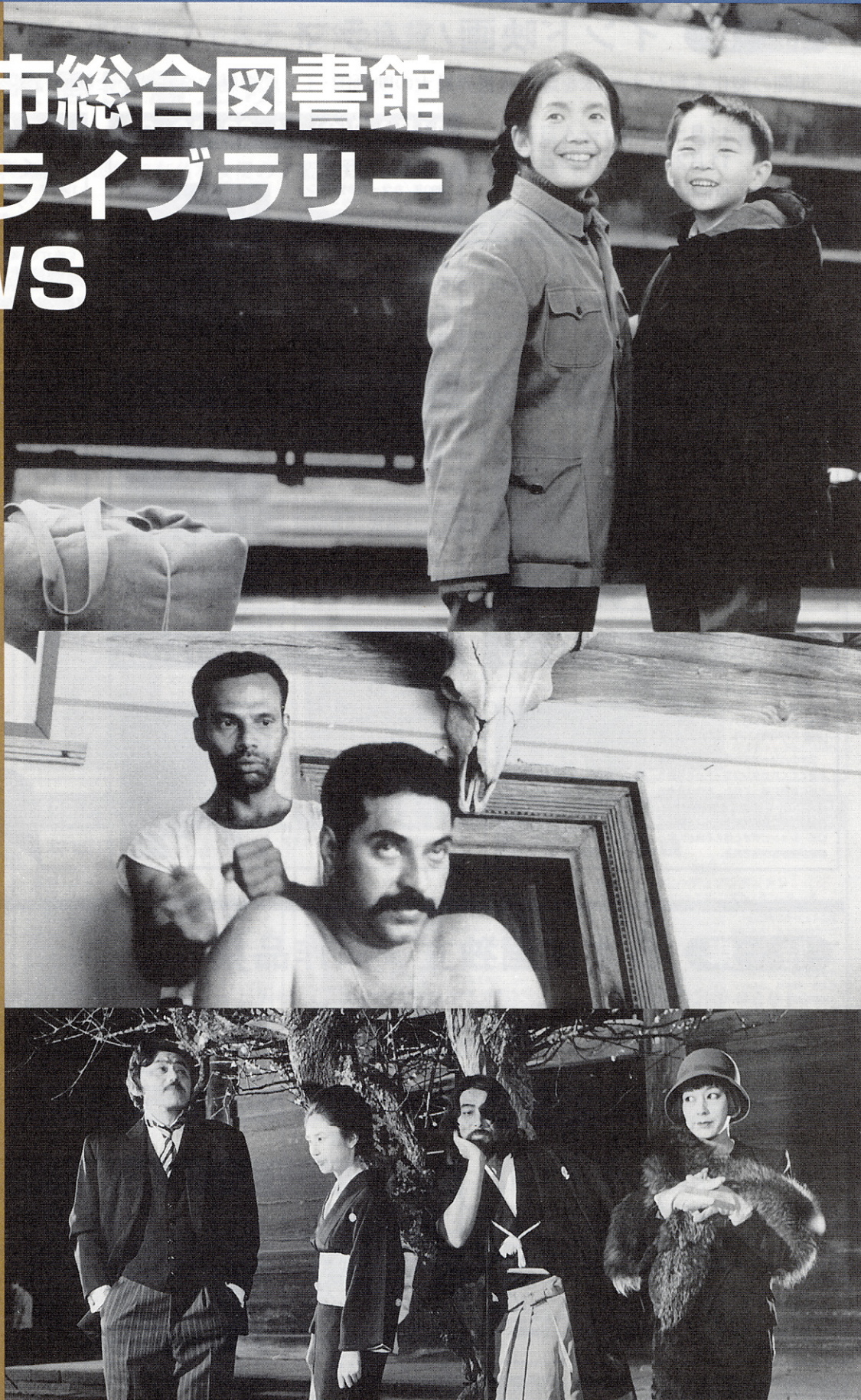
主催 中国映画回顧上映実行委員会・福岡市総合図書館

共催 アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会

特集

* インド映画パノラマ 11月1日(金)～11月4日(月)／11月27日(水)～11月29日(金)

* 日本映画独立プロ作品集 11月20日(水)～11月24日(日)



No.5

1996 November

11

特集 インド映画パノラマ

年間の製作本数が800本を越える世界最大の映画国・インドの魅力を満載した映画特集を2回にわけて上映。

会 期：11月1日(金)～4日(月)
11月27日(水)～29日(金)

観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員・各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡在住の障害者の方は手帳を呈示することで無料で入場できます。

11月1日(金) 14:00/19:00

希望の行方

1990年/カラー135分/インド
監督：サイー・バラーンジペー
出演：シバパー・アズミ/ナナ・パターガ

この映画は同郷の二組の夫婦の物語を対比させ、インドの労働者と農民の生活を温かいユーモアをこめて描いている。貧しいがたくましく生きる人々のエネルギーが笑いを呼び、美しく見られる娯楽作品となっている。社会問題としての出稼ぎの悲劇性もきちんと描かれており、社会的なメッセージを持った力作である。

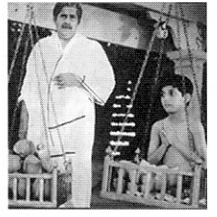


11月2日(土) 14:00/19:00

ぼくの家出

1991年/カラー 93分/インド
監督：シヴァン
出演：タルン・クマール/パールヴァティ

インドで最も教育水準の高いケララ州においては、親が教育に力を注ぐため日本のような教育ママが出現する。主人公のヴィスは勉強のスケジュールに追い回されひどくプレッシャーを感じており、とうとう田舎のおじいさんのところへ家出してしまふ。



11月3日(日) 11:00/15:00

オリダット・あるところで

1986年/カラー 115分/インド
監督：G・アラヴィンダ
出演：ネドゥムディ・ヴェス/ティラカン

インドがイギリスから独立してまもない1952年～56年頃の物語である。57年の州議会選挙で共産党政権が誕生した。この映画が描いているのはケララ州の統一や共産党政権の成立前後のこの地方の話である。寓話的な映画の多いアラヴィンダには珍しく社会的なテーマをあつかった作品。

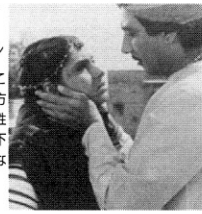


11月4日(月) 11:00/15:00

ルダリー悲しむものー

1992年/カラー 120分/インド
監督：カルパナ・ラジュミ
出演：ラージュ・バハル/アムジヤ・カーン

ルダリーとは葬式に雇われる泣き女のこと。インドでも北部のラジャスタン地方に多い伝統的な生活様式であるが、女性監督カルパナ・ラジュミがインド最下層の女の力強い生き方を、娯楽性豊かな語り口で描いた作品。

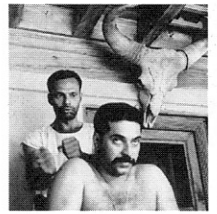


11月27日(水) 14:00/19:00

従属するもの

1993年/カラー 112分/インド
監督：アドゥール・ゴバラクリシュナン
出演：マンムッティ/タンヴィ・アズミ

トンは妻のオーマナとともにケララから移住してきた労働者である。しかし彼の人生は支配者のパッテラルのために思ってもみない方向へ進んでいく。単純なストーリーではあるが、支配者の権力を銃と椅子で象徴させながら、支配する者とされる者との緊張感をあますところなく描き出す。



11月28日(木) 14:00/19:00

神の与えしもの

1992年/カラー 147分/インド
監督：T・ハリハラン
出演：ヴィニートウ/アムタル

歌手のハリードスは母親のように自分を育ててくれたタンブラットツを見舞うために故郷に帰ってきた。本作は音楽のレッスンシーンを随所に織り交ぜながら、男と女の掛け合いが描かれる。一種のプロモーションビデオと言えるほどに歌と映像が絶妙な作品である。

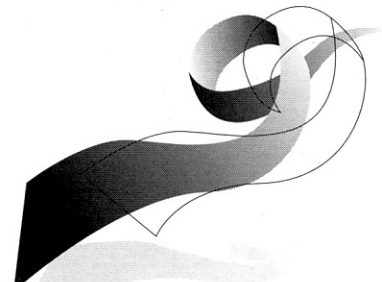
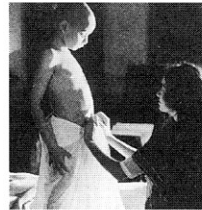


11月29日(金) 14:00/19:00

めざめ

1991年/カラー 140分/インド
監督：アルン・コウル
出演：アッシュ・ミシュラ/マハル・スイン

バラモンの修業院でヴェーダを学ぶ少年ナンニーを中心に、彼を取り巻く大人社会の矛盾を描いた作品。カーストの低い男と恋に落ち身ごもった娘を、自らの手で追放せざるをえない院長の姿など、カースト制の中で生きる人々の姿が、純真な少年の目を通して描かれることでより鮮明に浮かびあがってくる。



特集 日本映画独立プロ作品集

1950年代映画産業はピークを迎えるが、同時にこの時代はレッド・パージや労働争議によって多くの才能ある監督、映画人が独立を余儀なくされた。また作家の自主性と会社の方針の対立によって、独立した映画人も少なくなかった。これらの映画人を中心に多くの独立プロダクションが誕生し、ATGの方針転換なども手伝って、大手映画会社の作品とは異なった多様な作品が作られていく。これら独立プロ系の映画は、広報・配給の問題などで興行的に成功しなかった作品も多いが、それゆえにあまり知られていない名作、傑作も多い。

今回は1952年の真空地帯から1980年のツイゴイネルワイゼンまでの独立プロ製作の5作品を特集。

会 期：11月20日(水)～24日(日)

観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員・各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡在住の障害者の方は手帳を呈示することで無料で入場できます。

11月20日(水) 14:00/19:00

裸の島

1960年/モノクロ 96分/近代映画協会
脚本・監督：新藤兼人
出演：音羽信子/殿山泰司
田中伸二/堀本正紀

1950年当時脚本家としての地位を確保していた新藤兼人は、作家の主体性を貫こうと独立を決意。独立プロ「近代映画協会」を映画監督の吉村公三郎らと設立する。この「裸の島」は低予算、少人数で作った新藤の代表作。モスクワ映画祭グランプリ他



11月21日(木) 14:00/19:00

肉弾

1968年/モノクロ 116分/肉弾を作る会=ATG
脚本・監督：岡本喜八
出演：寺田農/大谷直子/天本英世
今福正雄

岡本喜八は自身の戦争体験を語るため、この「肉弾」の脚本を仕上げ東宝と映画化の交渉を行うが東宝側は難色を示す。結局彼は私財を投じてこの「肉弾」を完成させた。芸術祭文部大臣賞、毎日映画コンクール監督賞、シナリオ作家協会賞他受賞。



11月22日(金) 14:00/19:00

真空地帯

1952年/モノクロ 129分/新星映画社
監督：山本薩夫 原作：野間宏
音楽：團伊玖磨
出演：木村功/神田隆/加藤嘉
下元勉/三島雅雄

戦後の東宝争議で退職を余儀なくされた山本薩夫は、亀井文夫・今井正らと1950年に新星映画社を設立する。新星映画第三作として製作された本作は、内地の日本陸軍の軍隊生活の非人間性を告発し、大作、問題作として話題になる。



11月23日(土・祝) 11:00/15:00

砂の女

1964年/モノクロ 147分/勸使河原プロダクション
監督：勸使河原宏
原作・脚本：阿部公房 音楽：武満徹
出演：岡田英二/岸田今日子/三井弘二/伊藤弘子

草月流家元を父に持つ勸使河原宏は東京美術学校在学中から、前衛芸術運動に参加。その後映画に興味を持ち、記録映画などを製作する。砂の女は交流のあった阿部公房の原作を自ら脚色、ATG最初の日本映画提携製作、配給作品であり彼の初期の傑作である。



11月24日(日) 11:00/15:00

ツイゴイネルワイゼン

1980年/カラー 145分/シネマ・ブラセット
監督：鈴木清順
原作：原田芳雄/大谷直子
大楠道代/藤田敏八

1967年鈴木清順は当時の日活社長から突然解雇通知を受け、裁判沙汰にまでなる。以来10年間幻の監督となり示談成立、映画監督復帰第2作目の本作によって名実共に復活する。芸術選奨文部大臣賞、日本アカデミー作品賞、ベルリン国際映画祭審査員特別賞を受賞。



中国映画回顧上映

1930年代から現代まで、中国映画の歴史を代表作で回顧する大特集。なお11月10日(日)13:00より中国映画第五世代の旗手、田壮壮監督と監督の母親で有名な女優の于藍女史による講演会を予定しています。

主催：中国映画回顧上映実行委員会

福岡市総合図書館

共催：アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会

後援：中華人民共和国駐福岡総領事館

協力：大映・東光徳間

会期：11月6日(水)～11月10日(日)

11月13日(水)～11月17日(日)

観覧料：500円(大人)／400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)／2,000円(5回券)

※前売りは5回券のみ。チケットぴあ(092-708-9999)で販売いたします。

11月6日(水) 13:00

おもちゃ

1933年/モノクロ サイレント 107分

監督：スン・ユイ

出演：ロアン・リンユイ/リー・リー



蘇州の水郷で泥人形や竹製品のおもちゃを作っている村がある。中国のグレートガールとわかれたロアン・リンユイが才気ある女性を演じており、つぎつぎに新しいおもちゃのアイデアを考えだして生活していた。1931年に満州事変が起きており、この映画は抗日映画の傑作と評価は高い。

11月6日(水)16:00/11月8日(金)13:00

深夜の歌声

1937年/モノクロ 125分

監督：マーシュイ・ウェイバン

出演：フー・ピン/チン・ジャン



アメリカ映画「オペラ座の怪人」の翻案。ただオペラ座の屋上にひそむ怪人であり、実は革命運動の同志であり、地主の娘と恋仲になったため地主の手先から酷刑をかけられた、という設定になっている。監督のマーシュイ・ウェイバンは怪奇映画の名手といわれている。

11月6日(水)19:00/11月8日(金)16:00

街角の天使

1937年/モノクロ 100分

監督：ユアン・ムーチー

出演：チャオ・タン/チュウ・シュアン



中国で1930年代進歩派と呼ばれている映画運動の代表作のひとつ。アメリカ映画の青春ものの傑作「第7天国」の設定を巧みに換骨奪胎して、日中戦争直前の時期の上海の裏町に生きる若者達の姿を描いている。

11月7日(木)13:00/11月8日(金)19:00

奥様万歳

1947年/モノクロ 114分

監督：サン・フー

出演：チアン・ティエンリウ/チャン・ファア



上海の実業家のお屋敷が主な舞台である。この家には美人で威厳のある大奥様がいて、いつもおっとり構えている。またこの家にはトラブルが次々と起こるのだが、若い奥さんが大奥様の耳に入る前に解決してしまう。まるでアメリカ映画のようなスマートなブルジョア喜劇の傑作。

11月7日(木) 16:00

女神

1934年/モノクロ サイレント 79分

監督：ウー・ヨシカン

出演：ロアン・リンユイ/リー・チェン



主人公は幼い子供を養うために、夜な夜な街へ出て体を売って生活している。ところがある日ヤクザまがいの男に目をつけられつぎまたとわかれるようになる。中国映画史最大のスターといわれた阮玲玉(ロアン・リンユイ)の代表作であり、ローキー・トーンの陰影にとんだ美しい映画である。

11月7日(木) 19:00

田舎町の春

1948年/モノクロ 99分

監督：フェイ・ムー

出演：ウェイ・ウェイ/ツイ・チャオミン



田舎町の中年の知識者の夫婦とその友人との三角関係を、それぞれに善意の人々のわびしく悲しい人間関係として、あくまで内面的な心理として描いている。まるで1930年代のある種のフランス映画のようなベシスティックな大人の恋愛物語である。

11月9日(土)13:00/11月14日(木)16:00

からすとすずめ

1949年/モノクロ 115分

監督：ジョン・チュンリー

出演：チャオ・タン/スン・タオリン



ネオ・リアリズム的な映画として、世界的なレベレの一つの頂点にたつ傑作である。国共内戦で共産党の勝利に終わろうとしていた当時、まだ国民党支配下にあった、混乱を極めた上海の世相を鮮やかにとらえた風刺的な傑作であり、国民党が台湾に去ってから公開された。

11月9日(土)16:00/11月13日(水)19:00

林商店

1959年/カラー 85分

監督：スー・ホフ

出演：シェ・ティエン/ユイ・ラン



茅盾の小説を映画化したもので物語は1932年、第一次上海事変当時のことである。上海から少し内陸部に入った小さな田舎町の出来事である。林という雑貨商は日本から輸入した商品を探っている。しかし日本との戦争により商売が難しくなる。緻密な描写で現実味あふれる傑作である。

11月9日(土)19:00/11月14日(木)13:00

私の一生

1950年/モノクロ 108分

監督：シー・ホイ

出演：シー・ホイ/ウェイ・ホーリン



シー・ホイは40年代、50年代の上海の映画・演劇界で最も活躍した俳優の一人である。原作は近代中国の庶民生活を描いた老舍の戯曲であり、シー・ホイが監督・主演をこなしている。物語はある北京警察のおまわりさんの一生であり、年輩した主人公が人生を振り返るという形式で物語は進んでいく。

11月10日(日)11:00/11月17日(日)16:30

盗馬賊

1986年/カラー 99分

監督：ティエン・チュアンチュアン

出演：ツイ・チャンレンズン/タン・チーチ



1923年のチベット物語である。主人公のロバールは荒々しく逞しい牧畜民の男であるが、貧しさのため仲間と組んで馬蹄を売っている。ある時、役人から奪った品を寺院に寄進して村から追放される。単純なストーリーであるが、入念なカメラワークが深みのある映像を作り出している。

11月10日(日)15:30/11月16日(土)13:00

青い嵐

1993年/カラー 138分

監督：ティエン・チュアンチュアン

出演：ルー・リーピン/ブー・ツンシン



50年代から60年代の中国を舞台に、権力に翻弄されていく人々の姿を一人の女とその息子ティエツウの目を通して描いている。ティエン・チュアンチュアン監督の人生を半ば自伝的に映画化した作品で過去の作品とは一変したゆったりと時を刻むような演出がみごとである。93年東京国際映画祭グランプリ受賞。

11月13日(水) 13:00

家

1956年/白黒 125分

監督：チェン・シーハー/イェ・ミン

出演：スン・タオリン/チャン・ルイファン



中国の有名な作家巴金の同名小説を映画化したもの。旧制度化、1916年～20年の中国四川省成都を舞台に、高家という官地地主家庭に生まれた三兄弟が迫りくる時代の変化の予兆のなか自らの生き方を問うていく。愛と苦悩の一大絵巻である。

11月13日(水)16:00/11月14日(木)19:00

舞台姉妹

1965年/カラー 117分

監督：シェ・ファン

出演：シェ・ファン/ツァオ・インティ



「笑翁録」で知られるシェ・ファン監督作品。江南の田舎の素朴な川柳集の中、この映画は水郷を船で巡回公演している越劇の一団の物語である。革命前からの境遇にある若い女が、主から逃れて劇団に逃げ込み、戦争や革命に翻弄されながらもしたいに一座の花形になっている。

11月15日(金)13:00/11月16日(土)16:00

紅いコーリャン

1987年/カラー 91分

監督：チャン・イーモウ

出演：コン・リー/ドン・ルーチュン



「古井戸」の主演や「黄色い大地」の撮影等多彩な才能を見せるチャン・イーモウの初監督作品。20年代の山東省、18歳で酒屋に嫁いだチアウルの物語を、広大なコーリャン畑を背景に緻密な構成で描いている。その鮮烈な映像で世界中が騒然となった。ベルリン映画祭グランプリ。

11月15日(金) 16:00

狩り場の掟

1985年/カラー 83分

監督：ティエン・チュアンチュアン

出演：アオターケン・バーヤ/スワン・タオ・アルチャー



内モンゴルで製作された力作。草原の狩猟民族の、馬で獲物を追って銃で撃つ生活がドキュメンタリータッチで克明に描かれる。人馬を追い続ける流れるようなカメラワークが見事であり、我々の論議で生きる狩猟民のあり方に打ちのめされる。

11月15日(金)19:00/11月17日(日)10:30

黄色い大地

1984年/カラー 94分

監督：チェン・カイコー

出演：シュエ・バイ/ワン・シュエシ



中国映画第五世代の登場を世界に知らしめた記念碑的な作品。黄色い大地が幾重にも折り重なる夢幻的な風景の向こうから一人の男が歩いてくる。彼は八路軍の文化工作員であり、民間の歌の収集をしているという。荒涼とした風景が流麗な画面と構図の素晴らしい鮮やかである。

11月16日(土)19:00/11月17日(日)13:00

王さんの憂鬱な秋

1994年/カラー 148分

監督：ホワン・チェンシン

出演：ニュー・チェンホワ/レイ・グーシェン



地方都市の文化センターに務める副所長のワンは、勤勉で同僚たちから慕われているにも関わらずなぜか所長に昇進できない。彼が昇進しようとする必ず新しい所長が赴任してくるからだ。洗練されたセリフ、高度な撮影、まるで精密機械のような絶妙に構成された映画であり、単なる小市民喜劇の枠をこえた傑作。

11月10日(日) 13:00

<予定> 田壮壮・于藍 講演会

「中国電影史話」

中国第五世代を代表する監督の一人、田壮壮(ティエン・チュアン・チュアン)監督と監督の実母で女優の于藍(ユイ・ラン)女史による講演会。

※入場無料

映像ホールスケジュール

月	日	曜日	内 容	
11	1	金	インド映画パノラマ	14:00 希望の行方
	2	土		19:00 希望の行方
	3	日		14:00 ぼくの家出
	4	月		19:00 ぼくの家出
	5	火	中国映画回顧上映	11:00 オリダット・あるところで
	6	水		15:00 オリダット・あるところで
	7	木		11:00 ルダリー
	8	金		15:00 ルダリー
	9	土	中国映画回顧上映	11:00 希望の行方
	10	日		19:00 希望の行方
	11	月		14:00 ぼくの家出
	12	火		19:00 ぼくの家出
	13	水	中国映画回顧上映	11:00 オリダット・あるところで
	14	木		15:00 オリダット・あるところで
	15	金		11:00 ルダリー
	16	土		15:00 ルダリー
	17	日	中国映画回顧上映	11:00 希望の行方
	18	月		19:00 希望の行方
	19	火		14:00 ぼくの家出
	20	水		19:00 ぼくの家出
	21	木	日本映画独立プロ作品集	11:00 オリダット・あるところで
	22	金		15:00 オリダット・あるところで
	23	土		11:00 ルダリー
	24	日		15:00 ルダリー
	25	月	インド映画パノラマ	11:00 希望の行方
	26	火		19:00 希望の行方
	27	水		14:00 ぼくの家出
	28	木		19:00 ぼくの家出
	29	金	中国映画回顧上映	11:00 オリダット・あるところで
	30	土		15:00 オリダット・あるところで
	1	日		11:00 ルダリー
	2	月		15:00 ルダリー

※満席の場合、入場をご遠慮いただく場合がございますのでご了承下さい。

中国映画回顧上映 田壮壮・于藍講演会(予定)

11月10日(日)映像ホールにて田壮壮監督と彼の母親で元映画女優の于藍さんによる講演会「中国電影史話」を行います。
入場無料
申し込み方法：ハガキ、電話、FAXにて11月9日(土)までに
お申し込み下さい。
〒814 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課
TEL(092)852-0600 FAX(092)852-0609

田 壮 壮 (ティエン・チュアン・チュアン)



1952年生まれ。父親は俳優、監督で著名だった田方。青年時代を吉林省で過ごし、農業科学映画制作所でカメラマン、78年、北京電影学院の再開第一期生として監督科入学。82年卒業後2本の映画を共同監督の形で製作。1985年独立演出第一作「狩り場の掟」が注目を集め、中国第五世代の代表的監督の一人となる。

于 藍 (ユイ・ラン)



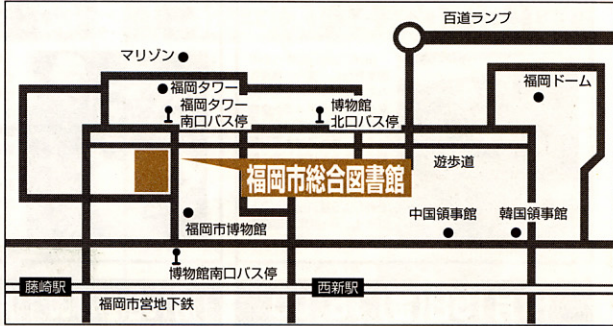
1921年生まれ。1938年延安抗日軍政大学で演劇をはじめ、40年東北文工団を経て東北映画製作所に所属。「白衣戦士」でデビュー。解放後は「林商店」等に出演、革命的な役柄で圧倒的な人気を得た。1961年「母(革命家庭)」でモスクワ映画祭最優秀主演女優賞受賞。1981年中国児童映画製作所の所長となる。

映像ホール利用申し込みについて

平成9年1月以降映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。(但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る)
期 間
平成9年
1月29日(水)～2月 2日(日)ただし1月31日(金)は月末休館日
2月26日(水)～3月 1日(土)ただし2月28日(金)は月末休館日
3月26日(水)～3月30日(日)
利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課 TEL(092)852-0600までお問い合わせください。

映像ライブラリーNEWS送付のご案内

只今ご覧の「映像ライブラリーNEWS」及び映像ホール等で今後行われる各種イベントの情報を毎月(来年度3月号まで)無料で郵送いたします。(ただし要切手代)ご希望の方は希望の郵送開始月及び住所・氏名を明記の上、郵送料(90円×'97年3月までの月数:例 12月号からなら90円×4ヶ月=360円)分の切手を同封して、下記の宛先まで送付してください。希望月より'97年3月まで毎月郵送いたします。
宛先：〒814 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課まで
なお、毎月当ホールの上映スケジュールポスターを掲示していただける店舗等も募集いたしております。
詳しくは TEL(092)852-0600 福岡市総合図書館映像資料課まで



交通機関
地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分
西鉄バス博物館南口および福岡タワー南口バス停留所より1分
都市高速百道ランプより車で2分